

と し ょ か ん 宇 治

No. 21

1990年7月1日 発行

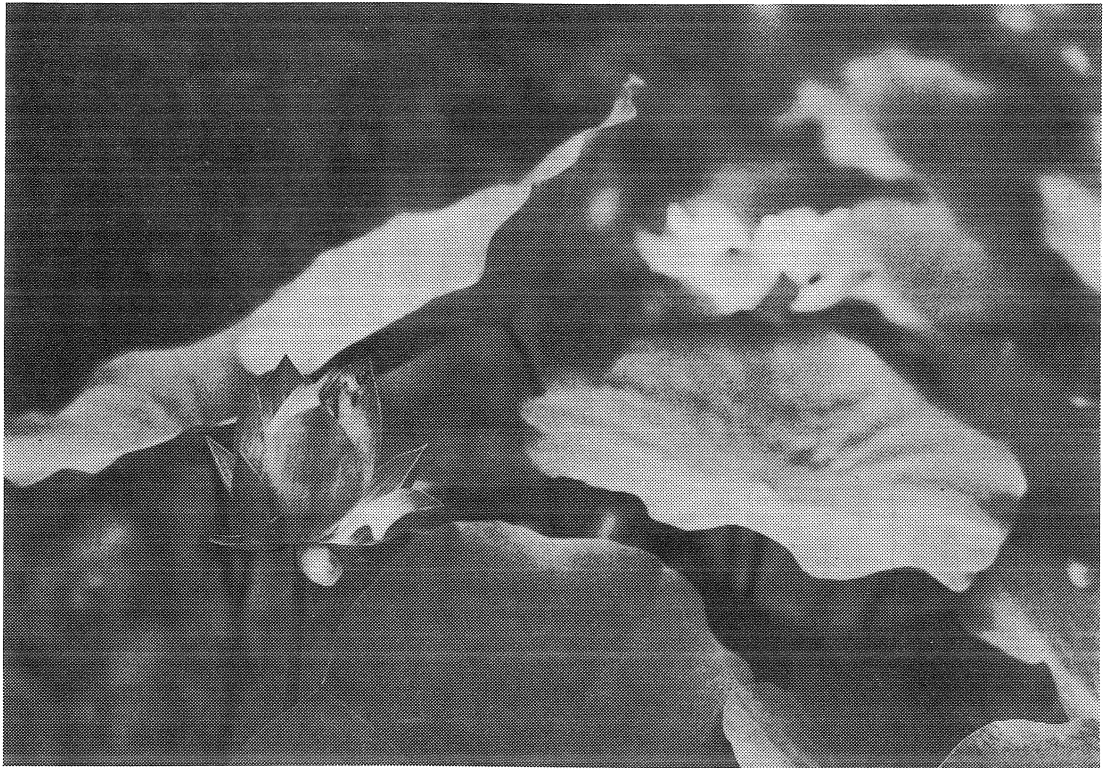
宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511



私と読書

宇治市社会教育委員長
和田 安治

本を片時もはなさず、ちょっとした時にも一生懸命読書に耽っている人をよく見かける。わたくしはもともと本を読むことは少ない。まして年をとるに従って、ますますその傾向にある。しかし、いろいろな会合に出て、それに関する資料をもらうことが多いが、それらの資料は、一般に堅苦しく、面白いくところは皆無にひとしい。ただこれらに目を通すことにより、時代の移り変わり、もの考え方、地域や時代の特徴、これからの展望等を数多く知ることができ、若干でもボケ防止になっているのではないだろうか。

こどものころ、少年倶楽部や猿飛佐助等がはやり、発売の日には本屋まで走って買いに行き、勉強もほったらかして、こども同士でその中味について語りあったことを覚えている。時代物的なものを読むと、それぞれの時代の人物像や風習、義理人情、もの考え方等、非常に細かくたくみに書かれており、自分自身がその時代の一員であるかのように感ずることがあるが、また、こういう作品を書くにあたっての作者のその時代への考察や史実資料あつめ等に敬服する。

テレビ等の普及により読書離れがいわれている最近、われわれはやはり本に親しみ、読書を通じて心の豊かな人になってほしいし、そういう輪の広がることを願いたい。

こどもと本を結ぶ

図書館の仕事シリーズ ① — 児童奉仕 —



先程から、ちいさなこども達が次々と集まってきて、いつものように並んで待っています。毎月一回の「おはなしかい」が始まるからなのです。

「おぼちゃんノきょうはなんのおはなし？」に始まって、おはなしの部屋に入るまでの間、こども達とおしゃべり。雑誌や新聞を読みながら、何事かと思いつつこんな光景を見られた方もおられることでしょう。

「おはなしかい」は、宇治の図書館サービスタワーの柱の一つ、児童奉仕の事業なのです。

児童奉仕は、幼児から小・中学生までを対象にこどもと本を結び付け、こどもに本を提供する仕事です。こどもにとって読書は大切だと言われながらも、読書ばなれはすずみ、図書館でも年々児童書の貸出やこどもの利用は成人にくらべ減少傾向にあります。そのため、図書館に親しみをもってもらい、こどもに読書への橋渡しができるよう、いろいろな取り組みをすすめています。

「おはなしかい」は、おはなし・絵本の読み聞かせ・紙芝居を組みあわせて全職員が順番で行っています。「おはなし」は昔話等を覚えて語りかせるものですが、

文字を知らない幼い子にも聞くことにより本の世界を楽しむことができ、本とこどもを結び付けるよい方法といわれています。職員にとってもこども達と知り合える楽しいひとときです。「おはなしかい」に参加する子の年齢幅が広いので、六月から、幼い子に合わせ絵本の読み聞かせを中心に遊びもとり入れた「えほんのじかん」を始めました。

また、興味と関心をひきだし、地味な本やいろいろな分野の本を知らせるため、テーマを決め関連した本を書棚から引き出し、一カ所に集めて展示しています。看板は職員の手作りで、今は「時の本」ですが、テーマは二カ月ごとに変わ、夏休みの展示には図書リストも作って配布しています。宿題等で本がどこにあるかわからない子の手助けをし、本を読む

喜びと共に本を調べる喜びを知ってもらうのは私達の大切な役割です。カウンターが成人と一緒のため、こども達だけにかかりきれないのが悩みの一つですが、特に利用の多い夏休みには、フロアに机を出し「なんでも相談コーナー」を開設して(一週間)います。

こどもによい本と出会ってほしい。こどもが成長していく時々にあった有益で、楽しめるものが書架に多くならぶよう、選書会議では、こどもの本を読み、書評や開架室での声を参考に本を選んでいきます。一人一人のこどもを大切に読書を楽しむ力を養うには、玉石混交の今日の出版事情を見ると特に、司書の選書に大きな役割があると思います。

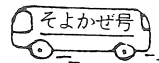
児童奉仕の取り組み課題はまだまだまだたくさんありますが、こどもの読書環境をより充実するよう、学校・地域・家庭と連携を取りながらすすめていきたいと考えています。



ちっちゃい子のための
えほんのじかん
毎月第二水曜日
おはなしかい
毎月第四水曜日
三時半からはじまるよ
きてねっ!

はしれ!

そよかせ号



コンピュータによる貸出が始まって、約六カ月。端末機の操作に職員もだんだんと慣れ、利用者の方もバー

コードを表にして本を並べてくださる人が一段と多くなりました。

さて、予約された本でそよかせ号にない本については、その多くを中央図書館から借り、皆さんの所へお届けしています。図書館は一つの建物だけではありません。移動図書館などのサービスポイントを含めて、全体が一つのものとして動いているのです。現在は、コンピュータがそのために大きな力を発揮しています。

「前に読んだこの人の本、他にも何か読みたいわ」「最近の新聞に載っていたんやけど、こんな本ないかしら……」「来月、家族でハイキングに行きたいので適当なガイドブックはないですか」本への思いはさまざまです。皆さんの予約本は返却されると、「ピーッ」という音でチェックされ、確実に借りてもらおうようになっています。皆さんの暮らしの中の図書館として、そよかせ号をどうぞご利用ください。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第9回

山本明子さん



今回は、公民館の児童文学サークルなどで活躍されている山本明子さんにお聞きしました。

☆図書館のご利用は……。

自分の書齋のような気持ちで気軽に利用していますので、手許にいつも何冊か図書館の本があります。☆どんな本を読まれますか。

児童文学や古典のサークルに入っていますから、課題本の理解を深めるために、作者の他の本を読んだり、同じテーマを扱った本を捜して読んだりします。幅の広い読書をしたいですね。

☆お捜しの本はすぐみつかりますか。

はい。みつからない時は、カウンター職員さんにお尋ねしますと、コンピュータ検索をしたり、書籍総目録をみたりと、親切に捜してくださるので助かります。

☆予約制度はご存知ですか。大いに利用しています。先日は、絶版だった本をわざわざ府立図書館から借りて用意して下さい、とても感激しました。

☆図書館の児童書コーナーへのご意見を伺いたいのですが……。テーマ別に本を展示するコーナー、たのしいですね。本もよく揃っていて……。読みたい本がちゃんとあります。ただ、絵本の配置はよみものと同じように作者順だと捜しやすいのですが……。

☆先輩として若いお母さんにひとこと。三人の娘たちには、よく本を読んで育てました。それぞれが大好きだった絵本の題や絵、覚えていきます。子どもにおいしくて栄養のある食物を用意するのと同じ気持ちで、たのしくて心の糧となる本をよく選んで読んであげてほしいですね。それには、図書館をどんどん利用されたら、と思います。

☆ありがとうございました。

雑誌

80タイトルに

雑誌が、八十タイトルにふえました。

五十九年、図書館オープン当時は四十九タイトルだった雑誌も、利用者の要望に応じて少しずつ増加……。文芸・スポーツ・家庭・趣味の分野とバラエティにとんだ雑誌コーナーへと、充実してきました。

最新号の雑誌はブラウザングコーナーで、バックナンバーは貸出していますので、ご自宅でゆっくりとお読みください。予約制度も利用していただけます。

新聞は、十種類。ブラウザングコーナーで当日分を、参考資料室で当月分を、自由に読んでいただけます。その他は、期間を定めて書庫内に保管しています。参考資料室内の新聞縮刷版(四種類)と共に、ご活用ください。

折々

NEWS

……

福井謙一氏 講演会開催

去る五月十二日、福井謙一氏の講演会が宇治市文化センターで開催されました。

これは、文化センター開館五周年及び読書週間記念行事として、昨年十二月に開催予定していた講演会が、講師の急病のため中止になったのを順延して行ったものです。

福井謙一氏は、「学ぶこと、生きる」と題して講演。小・中学生のころ読みふけた「夏目漱石全集」「ファール昆虫記」の人間観、自然観に感銘を受け、さらに旧制高校時代に憧れた物理学者のことが人生の指針となったと話され、読書が化学者の道を歩まれた氏の心に与えた影響を述べ、最後に、科学技術発展の時代に、自然から学び、感じるこ

とが生涯教育であり、新たな第一歩となるかも、と提案されました。

図書館では、読書の世界を広げ、本と図書館に親しみをもってもらいたいと願って、年に一回講演会を開いています。

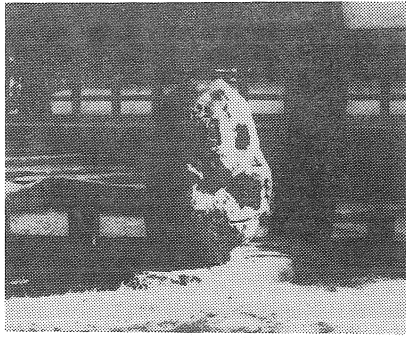
この秋も、お楽しみに。

郷土のはなし

「扇之芝」

平等院の境内北すみに「扇之芝」があります。この地は、平安時代後期の武將として、また歌人として活躍した源頼政（よりのりまさ）一〇四一（一一八〇）が、自害した所と伝えられています。

『平家物語』によれば、治承四年（一一八〇）、頼政は高倉宮（ひたかきのみや）仁王とともに平氏打倒を企てます。しかし、五月、相手側にこの計画がわかってしまいます。そのため大津の三井寺にいた頼政は、味方のいる奈良へ逃げようとし、五月二十五日の夜半、三井寺を出



扇之芝

発した頼政一行は、間道（かんどう）を利用して、醍醐・木幡・五ヶ庄を経て、明けた二十六日の早朝宇治橋を渡り、平等院に着きます。頼政が通ったこの道を後世の人は、頼政道と呼んでいます。

頼政らは平等院で小休止をとりますが、平氏側の追討軍も宇治橋東詰めにまで来ていました。やがて、宇治を挟んで両軍の戦いが始まり、平氏側は二万の兵に對し、頼政側はわずか三百の兵です。勝敗は誰が見ても明らかでしょう。頼政側は敗れ、頼政は、平等院境内の「扇之芝」で軍扇を敷いて

埋（うづ）れ木の 花咲くことも なかりしに 身のなる果てぞ 悲しかりけると詠んで、自害します。以仁王も山城町まで逃げますが、殺されてしまいました。

頼政は殺されましたが、でも彼の死は無駄ではありませんでした。関東にいた源頼朝ら源氏勢が、打倒平氏を目指して、一せいに立ち上がるのです。このあと、源氏が平氏を倒すのは、よくご存知のことでしょう。

天保年間に末孫にあたる太田氏が、この地に歌碑を立てて、頼政の死を憐んでいます。

本をかりるには

— 利用案内 —

- 市内にお住まいの方、市内に通勤通学されている方などなたでも1人5冊、かりられます。
- 貸出券は、中央図書館・移動図書館の共通券です。

中央図書館

- 貸出期間は、3週間です。
- 開館時間は、9時～17時です。
- 休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- 月に市内25カ所を巡回しています。
- 日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- 次回巡回日に返却して下さい。

(中央図書館の場所)



京阪宇治 または 近鉄大久保から 「太陽が丘」 行バス乗車 「折居台口」 バス停 下車すぐ

予約・ リクエストもできます。



編集後記

中央図書館開館以来、五年半館長をつとめた五十嵐一郎館長が異動し、石沢誠司館長が着任しました。

全市民の約二十八%の方が利用登録されるようになった図書館。一つの節目を迎えて、暮らしに役立つ、利用しやすい図書館となるようさらに努力したいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。